

評価領域		IVa 包括的・継続的ケアマネジメント業務						
評価の内容		高齢者が住みなれた地域で暮らし続けられるよう、かかりつけ医をはじめ、ケアマネジャー、地域の関係機関等の連携によって、個々の高齢者の状況に応じた包括かつ継続的な支援を行えるための体制づくりや、個々の介護支援専門員に対する支援などを行っているか。						
評価分類	評価のねらい	評価項目 (評価分類に対する視点)	自己点検判断基準			判断材料又は評価の方法	総合評価の集約基準	
			a できている(3点)	b ほぼできている(2点)	c まだ不十分(1点)			
			評価基準に対する視点がすべて実施できていた場合に、チェックする。	評価基準に対する視点の内、80%程度できている場合にチェックする。	評価基準に対する視点が十分にできていない、または実施できていない場合にチェックする。			
1 個々の高齢者を継続的に支援していくための支援体制の構築業務	(1)主治医との連携、在宅と施設の連携などのケアマネジメントの体制を整備している。	対象者が適切な医療を受けることができるようかかりつけ医や医療機関および関係機関と連携し、対象者を支援しているかを評価します。	①担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握している。	①担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握しているが、1年以上確認していない。	①担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握していない。	①担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握し資料として持っている。		できている :12~10点 ほぼできている :9~7点 まだ不十分 :6~4点
			②かかりつけ医とケアマネジャーや地域包括支援センターの職員が、個々の利用者の相談や情報交換を持ちやすい体制を構築している。	—	—	特に、かかりつけ医とケアマネジャー等が連携を図れる体制はとっていない。	定期会開催時の内容の記録や、かかりつけ医とケアマネジャー等との連絡シートが作成されている。	
			③ケアマネジメント支援が必要な高齢者の(入所)・退院(所)時に、相談対応や調整を行っている。	—	—	利用者や家族、関係機関等から相談がなされた時に、電話による助言は行っているが、待機、調整などは行っていない。	経過記録に、調整内容などを含め、支援経過が記録されている。	
			④在宅医療・介護連携支援センターや地域の医療連携室(病棟)、施設相談室と事例検討会や研修会への参加を通して情報交換を行っている。	—	—	支援が必要な高齢者が発生した際には、サービスの調整などで連携しているが、研修会等の交流する場合への参加を行っていない。	研修参加記録に、情報交換や交流等の内容が記録されている。	
2 介護支援専門員に対する個別支援	(1)ケアマネジャーへの個別相談に対応している。	ケアマネジャーからの相談等に対して適切に対応し、支援しているかを評価します。	①居宅介護支援事業所等に所属するケアマネジャーからの相談を、随時に受け付けている。	地域のケアマネジャーより、来所・電話等で相談を受けたとき考えを聞き、受け止め、ともに考える姿勢で相談を受け、相談内容を地域包括支援センター運営支援システムに入力し、整理している。	地域のケアマネジャーより、来所・電話等で相談を受けたとき、相談者がどうしてそう考えたかを聞き、受け止め、ともに考える姿勢で相談を受け、相談内容を(ケアマネジャー)ごとの個人相談カード等を作成しているが、整理されていない。	地域のケアマネジャーより、来所・電話等で相談を受けたとき、相談者がどうしてそう考えたかを聞き、受け止め、ともに考える姿勢で相談を受けているが、相談内容を地域包括支援センター運営支援システムに入力していない。	相談内容を地域包括支援センター運営支援システムに入力し、整理している。	できている :9~8点 ほぼできている :7~6点 まだ不十分 :5~3点
			②個別相談時に、必要な情報提供や情報交換を行っている。	相談内容に即した情報(社会資源、サービス、制度等)やチラシの書き出しを共有し、口頭で説明し、お互いに持つ情報を共有し、改善案など必要な意見交換を行い、区全体の問題として解決が必要な事例については、統括支援センターとともに、取り組みを行っている。	相談内容に即した情報(社会資源、サービス、制度等)を口頭で提供するとともに、お互いに持つ情報の共有や必要な意見交換を行い、区全体の問題として解決が必要な事例があっても、統括支援センターに報告を含め、何もしていない。	相談内容に即した情報(社会資源、サービス、制度等)を口頭で提供しているが意見交換までは行っていない。	提供した情報の内容のわかる記録や意見交換の記録がある。	
			③支援困難なケースについては、サービス担当者会議に参加するなどして助言・支援している。	相談内容に応じて、ケアマネジャーが開催するサービス担当者会議に参加し、助言、支援している。	支援困難事例の相談が入った際、つぐぐ等の支援や、相談内容に応じて、サービス担当者会議開催に当たっての助言は行っているが、参加には至っていない。	相談内容にあった解決の糸口や協力・支援を求める窓口の提示などの助言を行っている。	地域包括支援センター運営支援システムに、サービス担当者会議に出席した記録がある。	
(2)ケアマネジャーの質の向上に向けた取り組みを行っている。	ケアマネジメント能力を高めるための研修等の開催やケアマネジャー同士のネットワークを構築できるように取り組みを行っているかを評価します。	①地域包括支援センター単位で、ニーズに基づいてケアマネジメント能力を高めるための研修等を開催している。	定期的、圏域内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャー向けに、ニーズに基づいて研修会や勉強会等を開催している。	年に数回、圏域内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャー向けに、ニーズに基づいて研修会等を開催している。	区で実施するケアマネジメント研修は開催しているが、圏域内の居宅介護支援事業所向けの研修会は開催していない。	情報交換などの活動記録がある。		
			②地域包括支援センター単位で、ニーズに基づいてケアマネジャー同士のネットワークを構築できるような支援または取り組みを行なっている。	定期的、ニーズに基づいて圏域内のケアマネジャーが集い、互いの悩みを話し合う情報交換の場(機会)をつくっている。	地域包括支援センター単位で行う研修の場などを活用し、年に数回、ニーズに基づいて圏域内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーとの情報交換の場(機会)をつくっている。	区で実施するケアマネジメント研修の演習の中で、情報交換を行うことはあるが、待機、圏域内のケアマネジャーが情報交換を行える場をつくっていない。	意見交換の記録がある。 ※記録から、悩みの話し合いや気づきが見取れる。	できている :9~8点 ほぼできている :7~6点 まだ不十分 :5~3点
			③自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関し、市の基本方針をセンター職員で共有し、研修やプランチェック等で居宅介護支援事業所に周知している。	自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントに関し、市の基本方針をセンター職員で共有でき、居宅介護支援事業所ケアマネジャーにも研修やプランチェック等を通じ周知している。	—	自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントに関し、市の基本方針をセンター職員で共有できているが、居宅介護支援事業所への周知は行っていない。	ケアマネジメント研修の記録 原案確認シートの記録	

評価領域		IV b 地域ケア個別会議					
評価の内容		地域包括ケア体制構築のために、地域ケア会議の一つである地域ケア個別会議を効果的に開催すると同時に個別及び地域の課題解決のために活用しているか。包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の効果的な実施のために活用されているか。					
評価分類	評価のねらい	評価項目 (評価分類に対する視点)	自己点検判断基準			判断材料又は 評価の方法	総合評価の 集約基準
			a できている(3点) 評価基準に対する視点がすべて実施できていた場合に、チェックする。	b ほぼできている(2点) 評価基準に対する視点の内、80%程度できている場合にチェックする。	c まだ不十分(1点) 評価基準に対する視点が十分にできていない、または実施できていない場合にチェックする。		
1 地域 ケア 個別 会議 の 構 成 ・ 運 営	(1)地域福祉推進課が示した地域ケア個別会議が発揮すべき機能、権限、スケジュール等の計画に沿った実施ができている。	①地域福祉推進課が示した要綱、要領、手引き等を確認し、地域包括支援センターの実施計画に沿って実施している。	地域福祉推進課が示した要綱、要領、確認事項等を確認し、統括支援センターと協議の上、実施計画を立て、定期開催を行っている。必要時は随時開催を行っている。	—	計画をたてずに随時開催に偏るなど計画的に実施できていない。	計画表があるか 定例・随時開催状況	できている :9~8点 ほぼできている :7~6点 まだ不十分 :5~3点
		②地域ケア個別会議の目的や方向性をセンター職員・会議参加者・地域の関係者に対して周知している。	地域ケア個別会議の目的や方向性を統括支援センター、地域包括支援センターで共有し、会議参加者や関係者に周知している。	—	地域ケア個別会議の目的や方向性を統括支援センター、地域包括支援センターで共有できておらず、会議参加者や関係者にも周知していない。	地域ケア個別会議での関係者への周知状況	
		③開催目的に合った参加者やアドバイザーを選んでいる。	課題解決にむけた会議が効果的に行われるように参加者やアドバイザーを幅広い視点で選んでいる。事例によって本人の参加も検討している。	できている時とできていない時の割合で判断する。	課題によって参加者やアドバイザーを検討せず、固定化している。本人の参加も検討したことがない。	アドバイザーの参加状況 本人の参加状況	
2 地域 ケア 個別 会議 の 活 用	(1)個別事例及び地域課題解決のため、会議を効果的に行っている。	①多職種と連携して自立支援・重度化防止等に資する観点から検討を行い、対応策を講じている。	自立支援・重度化防止に資する観点で事例を選定し、多職種で検討したうえで対応策を検討している。	できている時とできていない時の割合で判断する。	処遇会議との区別がつかず、個別ケア会議で検討するに不適な事例を検討しているため、会議が効果的に実施できていない。	検討目的の状況把握	できている :21~19点 ほぼできている :18~10点 まだ不十分 :9~7点
		②個人情報の取り扱いに基づく対応を行っている。	参加者や市役所外のアドバイザーには個人情報保護に関する誓約書を提出してもらおうと同時に、会議開催前には必ず個人情報保護について説明している。	—	誓約書の提出依頼や参加者への説明が不十分である。	誓約書提出状況 説明実施状況	
		③議事録や検討事項をまとめて参加者間で共有している。	会議開催中に出される意見を必要に応じて、白板等に板書し、見える化することで会議の内容を参加者間で共有している。終了後は議事録を作成している。	できている時とできていない時の割合で判断する。	会議開催中に出される意見を見える化できておらず会議の内容を参加者間で共有できていない。また議事録を作成していない。	会議内容見える化実施状況	
		④会議で検討した個別事例について、その結果をケアプランに反映させるとともに、その後の変化をモニタリングし、再評価の上、ケアプランに生かし、関係者と共有できている。	モニタリング(必要に応じて会議)を計画的に実施し、その結果をケアプランに反映させ、会議に参加した関係者と共有できている。	できている時とできていない時の割合で判断する。	モニタリング(必要に応じて会議)を実施しておらず、検討結果をケアプランに反映できていない。	モニタリング(必要に応じて会議)実施状況 会議開催前後のケアプランの確認	
		⑤会議の実施状況、検討事項を統括支援センターを通じて地域福祉推進課に報告している。	地域包括支援センター運営支援システムを使用し会議報告書を作成している。またそれに基づき概要をまとめ、統括支援センターを通じて地域福祉推進課に報告している。	—	地域包括支援センター運営支援システムを使用し会議報告書を作成していない。また、統括支援センターを通じて概要を地域福祉推進課に報告していない。	会議報告書作成状況 概要報告状況	
		⑥地域の介護支援専門員のニーズや課題に基づく事例検討を行っている	ケアマネジメント研修やケアプラン確認の場等を利用して自立支援・重度化防止につながるケアマネジメントに関し、日頃から介護支援専門員のニーズや課題を把握し、個別ケア会議への参加を促すなどして事例検討を行っている。	できている時とできていない時の割合で判断する。	自立支援・重度化防止につながるケアマネジメントに関し、日頃から介護支援専門員のニーズや課題を把握できていない。個別ケア会議への参加を促せていない。	ニーズや課題の把握状況 個別ケア会議での事例提供状況	
		⑦会議で話し合われた「個別課題」(の積み重ね)から、「地域課題」を検討している。	会議で話し合われた「個別課題」(の積み重ね)から、「地域課題」を検討し、必要に応じて、包括ケア会議での議論や地域支援コーディネーターとの共有などを行っている。	できている時とできていない時の割合で判断する。	会議で話し合われた「個別課題」(の積み重ね)から、「地域課題」を検討に至っていない。	会議報告書作成状況	